

別添 3

自然環境整備計画の目標の達成状況等の評価

都道府県名		長野県		個別地域名		八ヶ岳中信高原国定公園		評価年度	利和6 年度	
事業実施期間		平成 30 年度～令和 4 年度		事業費	783,677 千円		(うち国費 304,806 千円)			
事業の実施内容		<p>八ヶ岳中信高原国定公園における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進するため、以下の整備を実施。</p> <p>(1) 歩道の整備：登山者の集中する百名山（八ヶ岳、蓼科山、霧ヶ峰、美ヶ原）等への登山道について、歩道周辺の植生保護と利用者の安全性確保の観点から歩道を整備。また、遊歩道の利用者の増加・集中が進む中、環境保全と利用者の利便性を高めるための遊歩道を整備。</p> <p>(2) 公園施設の整備：公園利用者の増加・集中が進む中、環境保全と利用者の利便性を高めるための園地内の園路や展望施設を整備。</p> <p>(3) 公衆便所の整備：観光客等の集中する八ヶ岳の駐車場において、環境保全と利用者の利便性を高めるため既存の公衆トイレを取り壊して再整備。</p> <p>○実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道の整備（3事業）：中信高原線道路（歩道）事業、七島、八島線道路（歩道）事業、横谷溪谷線道路（歩道）事業 ・公園施設の整備（7事業）：松原湖園地事業、高ボッチ山園地事業、蓼科湖園地事業、白樺湖園地事業、車山園地事業、霧ヶ峰集団施設地区博物展示施設事業、竜ヶ峰、見晴台園地事業 ・公衆便所の整備（2事業）：御射鹿池駐車場事業、八島池駐車場事業 								
目標の達成状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況		公園内の歩道、展望施設、公衆便所等の新規整備及び再整備を行うことで、利用者の安全性の確保、利便性の向上を図ることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い公園利用者数が大きく減少したが、本計画における整備により、コロナ後の利用者数の増加が期待される。							
	目標を定量化する指標の達成状況	当初の指標	指標	単位	定義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価	
						基準年度	目標年度	達成年度		
		その他の指標	八ヶ岳中信高原国定公園利用者数	千人	自然公園等利用者数調	10,241	10,703	9,385	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い利用者数が一時6,652千人まで減少したが、徐々にコロナ前の水準に戻りつつある。	
						H28	R4	R4		
整備に伴う取り組みの実施状況		本計画において整備されなかった近隣施設等についても適切な維持管理により利用者の安全性の確保、利便性の向上を図っている。								
今後の取り組み		利用実態やニーズを踏まえ、更なる利用者の安全性の確保、利便性の向上を図る。								

別添3

自然環境整備計画の目標の達成状況等の評価

都道府県名	長野県		個別地域名	妙義荒船佐久高原国定公園			評価年度	利和6 年度	
事業実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度		事業費	70,015 千円			(うち国費 29,938 千円)		
事業の実施内容	<p>妙義荒船佐久高原国定公園における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進するため、以下の整備を実施。 (1) 野営場の整備：利用者が増加している内山キャンプ場において、環境保全と利用者の利便性を高めるため、公衆トイレ等を改修。 (2) 歩道の整備：登山者の集中する山への登山道について、歩道周辺の植生保護と利用者の安全性確保の観点から歩道を整備。</p> <p>○実施事業 ・野営場の整備（1事業）：内山牧場野営場事業 ・歩道の整備（1事業）：十石峠八風山線道路(歩道)事業</p>								
目標の達成状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況	公園内の公衆便所、休憩所、登山道等の再整備を行うことで、利用者の安全性の確保、利便性の向上を図ることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い公園利用者数が大きく減少したが、本計画における整備により、コロナ後の利用者数の増加が期待される。							
	目標を定量化する指標の達成状況	当初の指標	指標	単位	定義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価
						基準年度	目標年度	達成年度	
			妙義荒船佐久高原国定公園利用者数	千人	自然公園等利用者数調	95	98	50	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い利用者数が一時23千人まで減少したが、徐々に利用者数が戻りつつある。
						H28	R4	R4	
		その他の指標							
	整備に伴う取り組みの実施状況	本計画において整備されなかった近隣施設等についても適切な維持管理により利用者の安全性の確保、利便性の向上を図っている。							
今後の取り組み	利用実態やニーズを踏まえ、更なる利用者の安全性の確保、利便性の向上を図る。								

別添 3

自然環境整備計画の目標の達成状況等の評価

都道府県名	長野県		個別地域名	天竜奥三河国定公園			評価年度	利和6 年度	
事業実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度		事業費	52,437 千円			(うち国費 23,596 千円)		
事業の実施内容	<p>天竜奥三河国定公園における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進するため、以下の整備を実施。 (1) 野営場の整備：利用者が増加している茶臼山集団施設地区野営場において、環境保全と利用者の利便性を高めるため、サンタリー棟を設置。 ○実施事業 ・野営場の整備（1事業）：茶臼山集団施設地区野営場事業</p>								
目標の達成状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況		公園内のサンタリー棟の新規整備を行うことで、利用者の利便性の向上を図ることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い公園利用者数が大きく減少したが、本計画における整備により、コロナ後の利用者数の増加が期待される。						
	目標を定量化する指標の達成状況	当 初 の 指 標	指 標	単 位	定 義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価
						基準年度	目標年度	達成年度	
			天竜奥三河国定公園利用者数	千人	自然公園等利用者数調	361	374	316	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い利用者数が一時285千人まで減少したが、徐々にコロナ前の水準に戻りつつある。
						H28	R4	R4	
		その 他 の 指 標							
整備に伴う取り組みの実施状況		本計画において整備されなかった近隣施設等についても適切な維持管理により利用者の安全性の確保、利便性の向上を図っている。							
今後の取り組み		利用実態やニーズを踏まえ、更なる利用者の安全性の確保、利便性の向上を図る。							

別添 3

自然環境整備計画の目標の達成状況等の評価

都道府県名	長野県		個別地域名	中央アルプス国定公園			評価年度	利和6 年度		
事業実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度		事業費	147,042 千円			(うち国費 58,868 千円)			
事業の実施内容	<p>中央アルプス国定公園における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進するため、以下の整備を実施。</p> <p>(1) 避難小屋の整備：令和2年の国定公園化により利用者の増加・集中が想定される中、避難小屋及びトイレの老朽化が顕著であることから、小屋の改修や自然環境への負荷が少ないし尿処理システムへの改修を重点的に実施。</p> <p>(2) 野営場、園地の整備：利用者が増加している野営場や園地において、環境保全と利用者の利便性を高めるため、整備や改修を実施。</p> <p>(3) 歩道の整備：国定公園化により利用者の増加・集中が想定される登山道等について、歩道周辺の植生保護と利用者の安全性確保の観点から、老朽化、損壊した歩道施設の重点的な改修等を実施。</p> <p>○実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難小屋の整備（4 事業）： 檜尾避難小屋事業、擂鉢窪避難小屋事業、宝剣岳避難小屋事業、木曾駒ヶ岳七合目避難小屋事業 ・ 野営場、園地の整備（3 事業）： 檜尾野営場事業、宝剣岳野営場事業、千人塚園地事業 ・ 歩道の整備（5 事業）： 駒ヶ岳縦走線道路（歩道）事業、剣ヶ峰線道路（歩道）事業、濃ヶ池線道路（歩道）事業、八丁坂線道路（歩道）事業、空木岳駒石コース線道路（歩道）事業 									
目標の達成状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況		公園内の避難小屋、野営場、歩道等の新規整備及び再整備を行うことで、利用者の安全性の確保、利便性の向上を図ることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い公園利用者数が大きく減少したが、本計画における整備により、コロナ後の利用者数の増加が期待される。							
	目標を定量化する指標の達成状況	当初の指標	指標	単位	定義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価	
						基準年度	目標年度	達成年度		
		中央アルプス国定公園利用者数	千人	自然公園等利用者数調	726	1,062	752	令和2年に県立公園から国定公園へ昇格することから目標値を高く設定した。令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い利用者数が一時411千人まで減少したが、徐々にコロナ前の県立公園時代の水準に戻りつつある。		
					H28	R4	R4			
	その他の指標									
整備に伴う取り組みの実施状況		本計画において整備されなかった近隣施設等についても適切な維持管理により利用者の安全性の確保、利便性の向上を図っている。								
今後の取り組み		利用実態やニーズを踏まえ、更なる利用者の安全性の確保、利便性の向上を図る。								

別添 3

自然環境整備計画の目標の達成状況等の評価

都道府県名	長野県		個別地域名	中部北陸自然歩道			評価年度	利和6 年度	
事業実施期間	平成 30 年度～令和 4 年度			事業費	2,596 千円 (うち国費 1,136 千円)				
事業の実施内容	<p>中部北陸自然歩道における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進するため、以下の整備を実施。 (1) 指導標の整備： 利用者の多い中部北陸自然歩道について、歩道周辺の自然環境等の保全と利用者の利便性を高めるため指導標を整備。 ○実施事業 ・ 指導標の整備： 中部北陸自然歩道</p>								
目標の達成状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況	<p>中部北陸自然歩道の指導標の再整備を行うことで、利用者の安全性の確保、利用者の利便性の向上を図ることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い公園利用者数が大きく減少したが、本計画における整備により、コロナ後の利用者数の増加が期待される。</p>							
	目標を定量化する指標の達成状況	当 初 の 指 標	指 標	単 位	定 義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価
						基準年度	目標年度	達成年度	
			中部北陸自然歩道利用者数	千人	自然公園等利用者数調	3,352 H28	3,730 R4	1,832 R4	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い利用者数が一時1,540千人まで減少したが、徐々に利用者数が戻りつつある。
			その 他 の 指 標						
	整備に伴う取り組みの実施状況	<p>本計画において整備されなかった既設指導標、案内標識等についても適切な維持管理により利用者の安全性の確保、利便性の向上を図っている。</p>							
今後の取り組み	<p>利用実態やニーズを踏まえ、更なる利用者の安全性の確保、利便性の向上を図る。</p>								